

# オツネトンボ

*Sympecma paedisca*

兵庫県：要調査

環境省：－

## 種の概要

腹長26～31mm、後翅長20～24mm程度で、全身が褐色をしているイトトンボである。成虫で越冬する。繁殖活動は3月末～5月で、幼虫は急速に成長し、次の世代が6月後半から現れる。その成虫は池から離れて移動し、そのまま夏秋冬を越して、翌年の春に繁殖に適した池を探して集まり、繁殖活動を行う。水生植物内に産卵する。この時期まだ水生植物が繁茂していないこともあり、昨年枯れて倒れた抽水植物に産卵することが多い。



写真提供：青木典司

## 国内分布

北海道、本州、四国、九州

## 県内分布記録

神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、淡路市、加東市、たつの市、猪名川町、稲美町、神河町、太子町、香美町

## 選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○				○

## 特記事項

新規追加種

毎年見られていた池で姿が見られなくなることが多くなって、発見が困難になってきている。また見られた池では個体数の減少が見られる。情報によるとまだ数多く集まる池は残ってはいるようだ。現状だけ見るとBランク相当であるが、今しばらく調査を進めて生息状況を見極める必要がある。

## 保護上の留意点